

国語 授業づくり講座

in 香南市立野市小学校

授業をアップデート！
生きて働く学びを創る！

東部管内の
講座情報



令和5年1月発行
東部教育事務所



学年 : 第2学年
単元名 : 『ありがとう』を手紙でつたえよう
学習材 : 『ありがとう』をつたえよう (東京書籍)
単元の目標 : 丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れることができる。【知識及び技能(1)キ】
 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。【思考力、判断力、表現力等B(1)ウ】
 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。【学びに向かう力、人間性等】
言語活動 : 『ありがとう』の気持ちを伝えるためにお世話になった人へ手紙を書く。



授業者
中島 有希奈 教諭

授業づくり講座を通して、系統性や児童の実態を踏まえた単元づくりや授業構成について、自分では気付かなかった多くの学びがありました。また、児童の主体的な学びにつなげられるよう、それぞれの学習場面での想定される児童の姿を事前にイメージしておくことを日頃の授業でも意識して行っていきます。

教材研究会(10月27日)

単元構成の工夫

- 前単元での学習や系統性を踏まえた付けたい力の明確化**
前単元での学びや日常の日記や振り返り等の書くことにおける児童の実態を踏まえ、重点指導事項を【思考力、判断力、表現力等】の(1)アから(1)ウに変更した。また、上学年(第3学年、第4学年)での目標や内容、系統的な学習を踏まえて本単元での付けたい力を明確にした。
- 導入における見通しをもたせる工夫**
「題材の設定」では、全校で行っている「ぼかぼカード」(相手にやってもらって嬉しかったことを書くカード)を使って手紙を書きたいという思いをもたせる。また、書きたい人や出来事を想起させるために学校生活や関わった人たちの写真を全体で共有する。

協議の視点◇

言語活動を通して、資質・能力を育成する単元計画になっているか。
 ・系統性を意識して、児童の実態に合った単元構成になっている。
 ・付けたい力が明確で評価がしやすく、また児童が何を目標として書けばよいのかが分かりやすい。
 ・手紙を書く学習が初めてなので、それぞれが手紙を書く前に、一緒に書く学習を入れたらよいのではないか。

題材の設定	情報の収集・内容の検討・構成の検討	考えの形成・配述	推敲・共有
<ul style="list-style-type: none"> 学習の見通しをもつ力 	<ul style="list-style-type: none"> 経験したことから書くことを見付けられる力 伝えたいことを明確にする力 簡単な構成を考える力 	<ul style="list-style-type: none"> 文と文の続き方に注意しながら書く力 内容のまとまりが分かるように書く力 	<ul style="list-style-type: none"> 文章を読み返し文章を直す力 文章に対する感想を伝え合う力
<ol style="list-style-type: none"> 単元のゴールと学習の流れを確認する。 教科書のモデルを二つ提示し、共通点・相違点を確認する。 タブレットで撮りためた写真を見て、手紙を書きたい相手や事柄を想起する。 	<ol style="list-style-type: none"> 手紙に書くことを考え、構成メモに書き出す。 「だれ」に「どのような」感謝の気持ちを伝えたいのかを想起する。 <p>(構成メモの内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手の名前 あいさつの言葉 いつ、何をしてくれたのか ありがとうの気持ち ありがとうの他に伝えたいこと 自分の名前 	<ol style="list-style-type: none"> 構成メモを基に「手紙」の下書きを書く。 <p>【思・判・表B(1)ウ】 (本時3/5)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 前時に書いた「手紙」を読み返し、間違いを直し消す。 手紙を読み、感想を伝え合い振り返りをする。 <p>(交流の視点)</p> <ul style="list-style-type: none"> 感謝の気持ちが伝わるか 手紙の書き方が正しいか

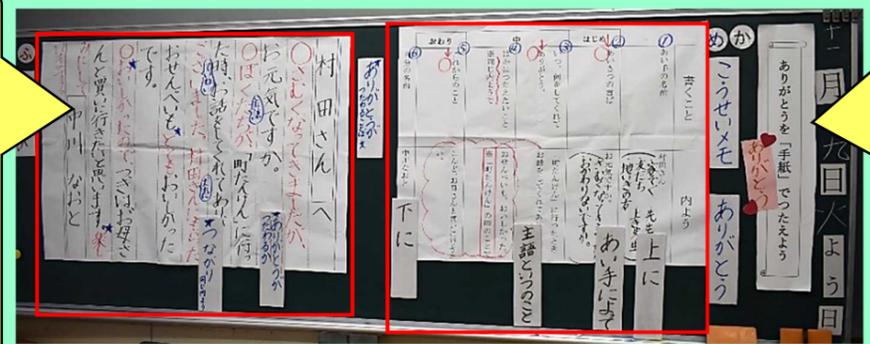
～参加者の声(リフレクションシートより)～

- ・系統性を意識して、児童の実態に合った単元構成になっていることが大切だと改めて思った。
- ・中学校教員であるが、小学校からの系統的な指導を意識して授業を行っていきたい。
- ・資質・能力を育成するために、単元計画がとても大切であるということが分かった。
- ・ゴールイメージをしっかりとって、スモールステップで指導を重ねていくことが重要であると再確認できた。
- ・言語活動に必然性をもたせるということをしっかり考えていきたい。
- ・学習課題の解決の視点を明確にすることが、児童の個別最適な学びにつながるのではないかと思った。

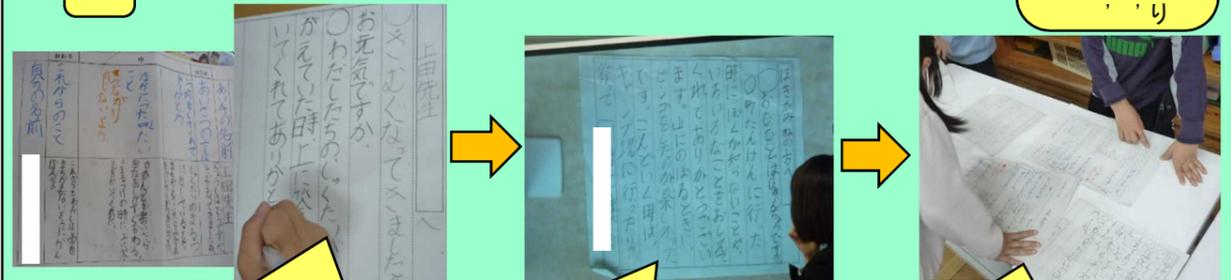
授業研究会(11月29日)

教材研究会を受けての変更点
 ○教科書のモデルでは付けたい資質・能力とのズレが生じるので、指導事項を捉え、モデルを作り直し、構成メモの内容項目を変更した。

手紙の具体的なモデルを提示した。



相手(手紙を書く)と目的(「ありがとう」の気持ちを伝える)と、前時に書いた構成メモについて、はじめに全体で確認をした。



文章のつながりがおかしくないか、「相手にありがとうが伝わるか」を意識して、構成メモを見ながら手紙を書いた。

中間では、構成メモの内容を選んだうえで、相手や文章のつながりを意識して加筆したり修正したりしたことを説明した。

友達との学び合いでは交流の視点(①文章のつながりがあるか、②相手に伝わるのか)でお互いの手紙を確認し合った。

協議の視点◇

- 個別最適な学びと協働的な学びの一体化を図る工夫が見られたか。**
 - ・児童の実態を捉えて、目的に合わせて交流することができていた。
 - ・児童同士の関わりによって、自分の下書きを直し、その良さを実感していた。
 - ・交流の視点を強調しておくよかった。
 - ・一人で学習を進めている児童は、自分で学習を選ぶことができる反面、自分では気付かないことを友達から教えてもらう機会が減ってしまうのではないかと感じた。
- 本時の付けたい力(資質・能力)が付いたか。**
 - ・「ありがとう」が伝わる文章になるように相手を意識して、構成メモを見ながら、下書きを書くことができていた。
 - ・内容のまとまり(段落の意識)が理解できていない児童がいた。

授業づくりのポイント

- 付けたい資質・能力の焦点化
前単元までの学習から、指導事項を捉え、付けたい資質・能力を焦点化して単元構成を行う。言語活動を通して、児童が「何ができるようになるか」ということを常に意識することが大切である。
- 児童の主体的な学びを促す授業展開と手立て
本時の後半では、児童それぞれが学習の進め方を自分自身で選択して行った。友達との学び合いを選択した場合においては、交流の視点を事前に示しておくなどの手立てを行った。児童のつまづきや困り感を予想して、主体的な学びにつながるよう、また協働的な学びにつなげられるようにすることが大切である。



ICTの活用(学びの蓄積)

単元末には児童が1人1台端末で、自分が作成した手紙を撮影して保存した。本単元終了後に、児童それぞれが手紙を書く時の参考にしたり、次学年での学習の際に前学年での学びを振り返ったりすることで活用していく。